

唐湊果樹園における果樹栽培の現状と問題点および今後の展望について

川口 昭二

はじめに

私は唐湊果樹園で果樹の栽培管理を担当していますが、この発表会では柑橘（早生温州みかん、普通温州みかん、八朔、伊予柑、ポンカン、タンカン）、枇杷、キーウイフルーツおよび果樹苗の栽培の現状と問題点ならびに私なりの今後の展望を発表します。

1：柑橘

1) 早生温州みかん

面積：約20 a（ハウス予定6 a）、品種：興津早生、宮川早生、山川早生（高接樹）

樹齢：6年から33年生、収穫販売時期：10月上旬から11月下旬

早生温州みかんの収量の推移は第1表に示した。

問題点および今後の展望

収穫販売時期集中の分散化：極早生みかん（日南1号や白浜1号）の導入

高品質みかん生産：(1) 一般管理技術向上、(2) 不良系統の除去、(3) 密植園の間伐による日照対策、(4) 排水対策、(5) 剪定、(6) 摘果、(7) 土作り、(8) 施肥、(9) 病害虫対策

新技術の導入：(1) ハウス栽培、(2) ボックス栽培、(3) ビニールマルチ栽培、(4) 屋根かけマルチ栽培、(5) 溝切り高畦栽培

2) 普通温州みかん

面積：約25 a、品種：宮迫6号、青島4号（高接樹）、大津4号（幼木）、寿太郎温州（幼木）

樹齢：2年から33年生、収穫出荷時期：12月上旬収穫、12月中旬から1月中旬出荷

普通温州みかんの収量の推移は第1表に示した。

問題点および今後の展望

不良系統の切り替え：高糖系品種（青島温州、大津4号、寿太郎温州等）への更新

高品質みかんづくり：早生温州みかんと同じ

3) 八朔

面積：約10 a、品種：野間紅八朔 普通八朔

樹齢：10年 収穫出荷時期：1月上旬収穫 4月上旬出荷（即売会用）

問題点および今後の展望

八朔本来の味を出すための収穫適期は3月であるが、寒害を受けるため1月上旬に収穫している。八朔は八朔萎縮病（ウイルス病）に弱い。

4) 伊予柑

面積：約12 a、品種：宮内伊予柑、大谷伊予柑、勝山伊予柑

樹齢：2から7年、収穫出荷時期：1月上旬収穫、4月上旬出荷（即売会用）

問題点および今後の展望

伊予柑は樹勢の弱い樹であるため、一般管理をよくしないと、隔年結果を起こしやすい。土作りが特に大事である。樹勢の強い品種（勝山伊予柑）へ変更する必要がある。

5) ポンカン

面積：約12 a、樹齢：6年、品種：太田ポンカン（早生）、吉田ポンカン

収穫出荷時期：12月上旬収穫、12月上旬から1月中旬出荷

問題点および今後の展望

ポンカンは本来の味が出るのは2月以後である。しかし、年末に贈答用で出荷されるため、12

月に収穫するのは仕方がない状況にある。

ポンカンは凍害を受けるとスアガリしてしまうため、年内収穫はこのためでもある。高品質のポンカン作りについては、早生温州みかんの場合と同じである。

6) タンカン

面積：8 a，樹齢：12年，品種：垂水1号

収穫出荷時期：1月中旬収穫，4月上旬出荷（即売会用）

問題点および今後の展望

タンカンは本来、年平均気温が19度以上で、冬季に0度にならない所のみかんであるため、唐湊果樹園ではあまり良い品質の果実は望めない。従って、よい品質のタンカン作りにはハウス・屋根掛け栽培が必要である。

2：枇杷

面積：10 a，品種：茂木，長崎早生，長生早生

樹齢：6年，収穫出荷時期：4月下旬から5月上旬

問題点および今後の展望

枇杷は樹体や枝葉は割合に寒さに強いが、花が晩秋から冬に開き、特に、幼果が1月から2月に-3度以下にさらされると、果実が肥大しない。このため、寒害対策として、適地の選定、防風施設の完備、品種の選定、おそ咲き花の利用、樹勢の強化、木毛の防寒、ハウス栽培等での加温等が必要である。また、良質果実を作るには低樹木にすることである。枇杷は大木になりやすいので、剪定や誘引により樹高を低くし、作業管理に便利な樹に整えることが重要である。

3：キーウイフルーツ

面積：5 a，品種：ハイワード，モンテイ，アポット，ゴールデンエッグ，ファストエンペラー
樹齢：8年，収穫出荷時期：11月上旬収穫（糖度5から6），12月中旬出荷（貯蔵して4月の即売会で販売したいが，現在品種を更新中であるため12月に販売している）

問題点および今後の展望

キーウイフルーツは他の果物に比較して作りやすい果物であるが、剪定や受粉が大変である。台風被害では強風に葉が吹きちぎられやすく、葉が少なくなると果実に空洞が出来て肥大しなくなる。このため、防風林の設置が重要である。

4：果樹苗の栽培

果樹苗の種類：柑橘，枇杷，柿，ムベ，その他

目的：新品種への早期更新（大苗を植える）

鑑賞用として実なり果樹を販売する（即売会用）

終わりに

唐湊果樹園では傾斜畑が多く、大型機械が入らないため、薬剤散布、草刈等の仕事が大変である。これを軽減するには、基盤整備により大型機械を導入することが必要である。このことによって高品質果実を省力的に生産することが可能であると考えられる。

第1表 唐湊果樹園における早生温州および普通温州みかんの収量の推移

品 種	年 次									
	昭和57	58	59	60	61	62	63	平成1	2	3
早生温州みかん(t)	5.8	6.1	5.4	2.9	6.2	5.5	2.8	4.4	2.0	3.1
普通温州みかん(t)	6.2	5.5	6.2	4.6	7.2	6.5	3.3	4.9	4.8	—